臨床研修医募集要項



独立行政法人
国立病院機構

九州医療センター

〒810-8563　福岡市中央区地行浜１丁目８番１号

2028 年度研修開始予定者用

基 本 理 念

病む人に寄り添い

安全かつ最適な医療を提供します。

運 営 方 針

1　国立病院機構病院として果たすべき医療、高度総合医療を実施する。

2　医療の安全管理に万全を期し、患者さん本位の安心・納得の医療を提供する。

3　信頼と心の通う医療連携を通じ、地域社会へ積極的な貢献を果たす。

4　臨床研究を積極的に行い、医療・医学の発展に貢献する。

5　医療従事者の教育研修、養成に指導的役割を果たす。

6　医療に関する有用な最新情報を積極的に発信する。

7　健全経営を堅持し、患者さん・職員がともに満足できる医療を志向する。

病　院　の　概　要

病　床　数　：694 床（一般 650 床、精神 42 床、感染症 2 床）

医　師　数　：スタッフ医師（院長・副院長を含む）165 名
レジデント 64 名、研修医（歯科も含む）55 名（2026 年 9 月現在）

診　療　科　：総合診療科[2]、代謝内分泌内科[4]、血液内科[8]、膠原病内科[4]、免疫感染症内科[3]
感染症内科[2]、腎臓・高血圧内科[3]、腫瘍内科[2]、精神科[3]、脳・神経内科[7]
脳血管内治療科[3]、呼吸器内科[6]、消化器内科[11]、循環器内科[11]、小児科[4]
肝胆膵外科[4]、消化管外科[7]、乳腺外科[4]、整形外科[9]、形成外科[2]
脳神経外科[4]、呼吸器外科[4]、心臓外科[3]、血管外科[3]、小児外科[2]、皮膚科[2]
泌尿器科[5]、産科・婦人科[9]、眼科[1]、耳鼻咽喉科[4]、放射線科[9]、麻酔科[10]
歯科・口腔外科[2]、病理[3]、救急科[1]、集中治療科[2]、災害医療部[1]
臨床検査[1]　　注；[ ]書きはスタッフ医師数（2026 年 4 月現在）

患　者　数　：

	〈2022 年度〉	〈2023 年度〉	〈2024 年度〉	〈2025 年度〉
入　　院	571.2 名	576.6 名	591.4 名	584 名
外　　来	909.0 名	894.8 名	890.1 名	872.4 名

病院の沿革・特徴

九州医療センターは、21 世紀に向けて国立医療機関にふさわしい機能の強化を図るため、国立福岡中央病院と国立久留米病院を統合し 1994 年 7 月 1 日に広くアジアに向かって発展する福岡市のシーサイドももち地区に開設された高度総合診療施設であります。

九州全域を診療圏とする高度先駆的医療、難病の専門医療、循環器疾患を主とする高度救急医療、高度周産期医療を主たる診療機能としてスタートいたしましたが、1999 年 3 月には政策医療推進計画において、高度総合医療施設に位置づけられました。現在は循環器病、がん、血液・造血器疾患、肝疾患、成育、免疫異常疾患、内分泌・代謝疾患、腎疾患、感覚器疾患、精神疾患などの専門医療施設として、また病院機能評価認定病院、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、単独型臨床研修指定病院、エイズ・広域災害の九州ブロック拠点病院、救急告示病院（救命救急センター）として、診療、臨床研究、教育・研修の 3 つの柱に情報発信という機能を加え、より多様な医療ニーズに応えています。

2004 年 4 月、国立から独立行政法人へ移行し、現在では名実ともに九州を代表する医療施設に成長しましたが、より高い機能充実に向けて変革を続けています。

臨床研修プログラム

研修管理委員会

委　員　長	：	院長	岩﨑　浩己（教育責任者）
副 委 員 長	：	臨床教育研修センター長	渡邉　哲博（総合プログラム責任者）
委　　員	：	副院長	宮村　知也（広域プログラム責任者）
		副院長	中島　寅彦
		臨床研究センター長	甲斐　哲也
		統括診療部長	溝口　昌弘
		救命救急センター長	杉森　宏
		副臨床教育研修センター長	春山　直樹（腎臓内科医師）
		総合プログラム副責任者	長﨑　洋司（感染症内科部長）
		小児科プログラム責任者	松下　悠紀（小児科科長）
		産婦人科プログラム責任者	小川　伸二（産婦人科部長）
		教育担当師長	金子　　大佑(教育担当看護師長)
		必須科担当（一般外来）	岸原　康浩（総合診療科科長／副総合プログラム責任者）
		必須科担当（精神科）	石川　謙介（精神科部長）
		必須科担当（救急科）	友田　昌徳（救急科科長）
		必修科担当（麻酔科）	辛島　裕士（麻酔科部長）
		必須科担当（CPC）	桃崎　征也（病理診断科部長）
		必須科担当（災害訓練）	野田　英一郎（災害医療部長）
		内科専門医担当	高瀬　謙（血液内科部長）
		外科専門医担当	坂口　善久（消化管外科部長）
		事務担当	村上　和明（事務部長）
		事務担当	草野　貴也（給与係長）
		事務担当	宮本　昴征（職員係長）

臨床修練認定施設としての認定を受けている学会

日本内科学会、日本外科学会、日本産科婦人科学会、日本麻酔科学会、日本整形外科学会、日本核医学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本皮膚科学会、日本眼科学会、日本小児科学会、日本小児外科学会、日本消化器外科学会、日本泌尿器科学会、日本胸部外科学会、日本消化器病学会、日本血液学会、日本腎臓学会、日本高血圧学会、日本リウマチ学会、日本医学放射線学会、日本呼吸器外科学会、日本病理学会、日本循環器学会、日本超音波医学会、日本消化器内視鏡学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本脳神経外科学会、日本乳癌学会、日本糖尿病学会、日本肝臓学会、日本神経学会、日本プライマリ・ケア学会、日本口腔外科学会、日本臨床細胞学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本放射線腫瘍学会、日本呼吸器学会、日本心臓血管外科学会、精神保健指定医常勤施設、日本周産期・新生児医学会、日本内分泌学会、日本老年医学会、日本静脈経腸栄養学会、日本脳卒中学会、日本 IVR 学会、日本婦人科腫瘍学会、日本臨床腫瘍学会、日本形成外科学会、日本頭頸部外科学会、日本透析医学会、日本肝胆膵外科学会、日本救急医学会、日本精神神経学会、日本不整脈学会・日本心電図学会、日本顎顔面インプラント学会、日本脈管学会、日本脳神経血管内治療学会、日本神経学会、日本病院総合診療医学会、日本カプセル内視鏡学会、日本急性血液浄化学会、日本消化管学会

臨床研修病院としての役割と理念・基本方針

研修理念：

プライマリ・ケアを基本に、総合的診療能力を幅広く身につけ、病む人に寄り添った医療が提供できるよう医師としての人格を涵養する。

医師としての高い倫理観と責任感を備え、患者中心の医療を実践できるプロフェッショナルを育成することを理念とする。

臨床研修病院としての役割：

国立病院機構及び九州有数の高度総合医療施設として、地域の基幹病院として、質の高い医療を提供できる医師、広く教育研修や臨床研究、社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する。

基本方針：

① 医師としての責任ある姿勢（プロフェッショナリズム）を体現できる。
高い倫理観と責任感を持ち、医師としての社会的役割と公共的使命を自覚し、常に最善の医療を追求する。

② 人間性と教養を備えた医師となる。
人間としての温かさと豊かな感性を持ち、教養を深め、病む人の心に寄り添いながら誠実な医療を行う。

③ 生涯学習に基づく広い視野と高い専門性を養う。
医学・医療の進展に対応できる柔軟な思考力と、高度な臨床能力を継続的に習得し続ける姿勢を持つ。

④ 患者中心の全人的医療を実践する。
患者の人格と価値観を尊重し、信頼関係に基づいた医療を通じて、患者とともに病と向き合う。

⑤ 多職種と協働し、良質なチーム医療を推進する。
互いの専門性を認め合い、コミュニケーションと連携により、協調的な医療環境を築く。

⑥ 地域医療を支え、社会に貢献する医師となる。
地域住民の健康と生活を支える視点を持ち、地域の医療資源の中で自らの役割を果たす。

⑦ 国立病院機構の一員として、公共性と制度的責任を理解し行動する。
医療の公平性・公共性を重んじ、法令遵守と社会的責任を果たす行動を常に意識する。

臨床研修病院としての特徴

当院では『診療』『臨床研究』とともに『教育研修』にも力を注いでいます。2004 年度に開始された新医師臨床研修制度の発足以来、毎年 25～30 名の初期臨床研修医を受け入れており、すでに 400 名を超える修了生が各分野で活躍しています。『プライマリ・ケアを基本に、総合的診療能力を幅広く身につけ、病む人に寄り添った医療が提供できるよう医師としての人格を涵養する』という、初期臨床研修の理念に則ったカリキュラムを構築するとともに、最近ではスキルアップラボラトリーセンターを利用したシミュレータ実習を取り入れ、さらなる研修の充実を図っています。

2017 年度からわが国の専門医制度が大幅に変わり、新しく設立された日本専門医機構のもとに日本内科学会・日本外科学会を始め、各学会の専門医制度が改革されました。当院でも初期臨床研修に続き、後期研修において医師としての人格を涵養、患者中心の診療、リサーチマインドを持った継続的な専門医研修プログラムを構築し、人材育成に努力しています。

さらに歯科医師臨床研修制度も整備しており、充実した指導医・上級医のもとで毎年２名の研修医を迎えています。看護職に対する教育・研修、新入職の医師やメディカルスタッフの教育・研修も定期的に企画され、年々充実しており、高度総合医療施設としての当院の機能強化と発展の礎となっています。2018 年には「NPO 法人卒後臨床研修評価機構 (JCEP)」が実施している卒後臨床研修評価を受審し、同機構の定める認定基準を達成していることが認められ、認定証が発行されました。

1. 研修設定プログラムの管理について

１） 施設：九州医療センターの全診療科、および研修協力施設。

２） プログラムの管理運営:月に１回臨床教育研修委員会を開催し、研修プログラムの立案・修正、各研修医の研修計画についての協議、各研修プログラムへの研修医の配置を行うと共に、研修に関するその他の具体的事項を決定します。研修の修了時には各研修医の評価を行います。

2. 研修教育課程（予定）

【重要】プログラム内容については、一部変更となる可能性があるため、必ず出願前に当院ホームページにて最新のプログラムを確認してください。

研修医の配置と期間（スーパーローテイト方式）

1 年次

総合プログラム（定員 21 名）

	24週以上			8週以上	4週以上	12週以上	
1 年次	内科(1)	内科(2)	内科(3)	救急科	麻酔科	外科(1)	外科(2)

小児科プログラム（定員 2 名）

	24週以上			8週以上	4週以上	12週以上	
1 年次	内科(1)	内科(2)	内科(3)	救急科	麻酔科	外科(1)	外科(2)

産婦人科プログラム（定員 2 名）

	24週以上			8週以上	4週以上	12週以上	
1 年次	内科(1)	内科(2)	内科(3)	救急科	麻酔科	外科(1)	外科(2)

広域連携型プログラム（定員 2 名）

	24週以上			8週以上	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上
1 年次	内科(1)	内科(2)	内科(3)	救急科	麻酔科	総診（一般外来）	外科	小児科

2 年次

総合プログラム（定員 21 名）

	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	8週以上	4週以上	20週以上
2 年次	地域医療	精神科	総診（一般外来）	小児科	産婦人科	救急科	麻酔科	希望選択（最大 5 科）

小児科プログラム（定員 2 名）

	4週以上	4週以上	4週以上	12週以上	12週以上	4週以上	8週以上
2 年次	地域医療	精神科	総診（一般外来）	小児科（九州医療センター）	小児科（こども病院）	産婦人科	希望選択（最大 2 科）

産婦人科プログラム（定員 2 名）

	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	4週以上	24週以上
2 年次	地域医療	精神科	総診（一般外来）	小児科	麻酔科	病理	産婦人科

広域連携型プログラム（定員 2 名）

	8週以上または12週以上	4週以上	4週以上	12週以上または16週以上	16 週以上
2 年次	広域連携（1）※地域連携4週含む	産婦人科	精神科	広域連携（2）	希望選択（最大 4 科）

内科（10 科）　：循環器内科、消化器内科、脳血管神経内科、代謝内分泌内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科、血液内科、膠原病内科、腫瘍内科、感染症内科
外科（8 科）　：消化管外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓外科、泌尿器科、血管外科、乳腺外科
地域医療　：博愛会病院、田川市立病院、柿添病院（長崎）、光武内科循環器科病院（長崎）、指宿医療センター（鹿児島）、延岡共立病院（宮崎）、にのさかクリニック
選択科　：全診療科（整形外科、脳血管内治療科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、小児外科、形成外科、病理を含む）
広域連携　：関門医療センター（山口）、岩国医療センター（山口）、延岡共立病院（宮崎）、都城医療センター（宮崎）、南九州病院（鹿児島）

3. 勤務時間、休暇、及び夜勤

1） 勤務時間：平日　・8 時 30 分から 16 時 30 分　※診療科により異なる
土日祝　・8 時 30 分から 16 時 30 分　※月に 1～2 回

2） 年次休暇：年間 23 日

3） 夜勤：月　3～4 回程度　16 時 45 分から 8 時 30 分

4） 時間外勤務：年間 960 時間以内（月間 80 時間以内）

※広域連携病院の勤務時間、休暇、および夜勤は連携先病院の就業規程等により異なります。

4. 教育に関する行事

１） 研修開始式：研修開始日に研修開始式を行い、院長の挨拶と事務的伝達を行います。

２） オリエンテーション：（4 月 1 日より数日予定）院内諸規程、施設、設備の概要と利用法、健康保険制度、医事法規、医療事故防止、電子カルテの使用法、カルテ情報管理、研修プログラムなどについて一連のレクチャーを行います

３） 研修教育プログラム：毎月第 2 木曜日、16 時 30 分より研修室において研修医全体ミーティングおよび研修医対象の研修教育プログラムを実施しています。内容は研修医自身が企画し、症例発表・ショートレクチャーを行っています。研修医の発表も義務付けられています。

４） CPC：年に 5 回程度開催されます。

５） KMC 初期セミナー：隔週金曜日に各疾患の基本的な事項について講義が開催されます。

６） 各科の回診、症例検討会、セミナー、抄読会があります。

７） 各科での研究会、学会（地方会、総会）での発表の機会が多くあります。

5. 研修の評価法

研修の評価には、オンライン研修評価システム（PG-EPOC）を利用します。各研修医には研修開始時に到達目標を記載した研修プログラムを配布し、研修期間に履修すべき項目について理解して頂きます。研修医は研修終了時に PG-EPOC を用いた自己評価と研修プログラムの評価を行い、指導医は研修医の評価を行ないます。また、指導医および研修管理委員会は各研修医の履修状況を随時点検し、期間中に到達目標が達成されるよう支援します。

6. 研修プログラムの修了の認定

臨床教育研修センターより研修医の研修目標の達成が報告された研修管理委員会は、協議のうえ研修の修了を認定し、この研修プログラムを修了したことを記した「研修修了証書」を病院長の承認のもとに授与いたします。

7. 研修プログラム修了後のコース

九州医療センターにおいて、専門医プログラムの専攻医として引き続き研修を継続、大学医学部の医局に入局して臨床研修を継続あるいは大学院に進学するなどの進路があります。

8. 研修医の処遇

１） 身分：期間職員　※アルバイト禁止

２） 加入保険等：社会保険、厚生年金、雇用保険、労働者災害補償保険

３） 給与：規定による給与が支給されます。　月額　約 330,000 円+ 時間外手当

４） 研修医宿舎：有り

５） 食事：職員食堂あり

※広域連携病院の処遇等は連携先病院の就業規程等により異なります。

9. 出願手続

１） 応募資格：第 122 回医師国家試験合格し医師免許取得見込みの者

２） 出願期間：2027 年 6 月 21 日（月）～7 月 20 日（火）必着

３） 出願書類：次の書類を臨床教育研修センターまで提出してください。

① 選考申込書兼履歴書（当院所定様式）

② 卒業証明書または卒業見込書

③ 成績証明書（CBT 試験結果含む）

④ 推薦状

⑤ 受験票貼付用写真 1 枚（選考申込書貼付用写真と同じ大きさ）

⑥ 返信用封筒 1 通（110 円切手貼付、長 3 封筒で各自、宛先住所の記入をお願いします）

※当院では、応募者の履歴書は返却しておりません。履歴書は適切に管理し、選考終了後は安全に処分いたします。

10. 選考方法

面接および試験（小論文等）による選考を行なう予定

試験日：2027 年 8 月 8 日（日）予定

11. 組み合わせ決定

2027 年 10 月 医師臨床研修マッチング協議会によるマッチングで決定

12. 研修開始日

2028 年 4 月 1 日（木）

13. 申込み･問い合わせ先

〒810-8563　福岡市中央区地行浜 1 丁目 8 番 1 号

独立行政法人国立病院機構　九州医療センター

臨床教育研修センター

TEL：092-852-0700　FAX：092-847-8802

URL：http://www.kyumed.jp/

E-mail：602-kengaku@mail.hosp.go.jp



独立行政法人
国立病院機構

九州医療センター

〒810-8563　福岡市中央区地行浜１丁目８番１号

TEL:092-852-0700　FAX:092-847-8802